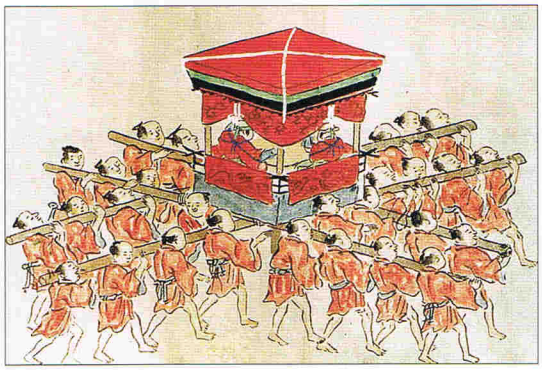
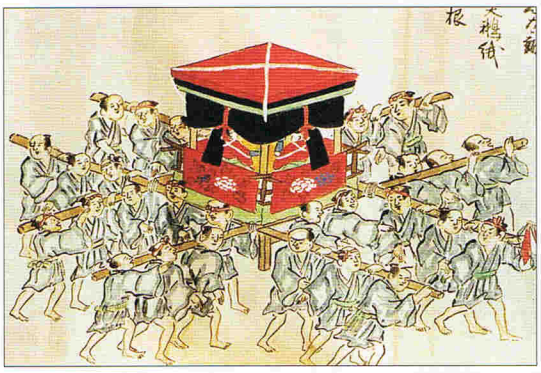
琴平町「輿太鼓（ちょうさ）」（年表17）

文化10年（1813）8月12日の条…大井祭礼賑として、横町・金山（寺）町・札之前町・片原町は輿太鼓、西山は獅子、内町は練り物。これが琴平での太鼓台（輿太鼓）初見。次年の文化14年には、西山・高藪・谷川は獅子、金山寺・札之前は「丁佐」（ちょうさ）とある。
（『金毘羅庶民信仰 年表編』金刀比羅宮社務所 昭和60年刊）
写真は、一世代前の琴平の太鼓台。蒲団部の四隅に、播州の蒲団型の屋台ほどではないが、若干の反りが見られる。

［播州地方の絵画史料］

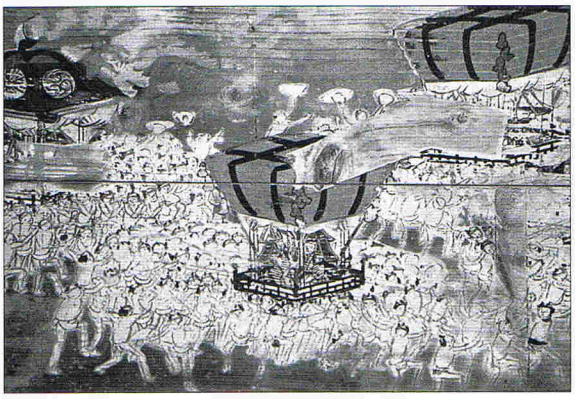
御先太鼓（年表18）…加古川市・神吉八幡神社御神事絵図・部分（文政3年1820）





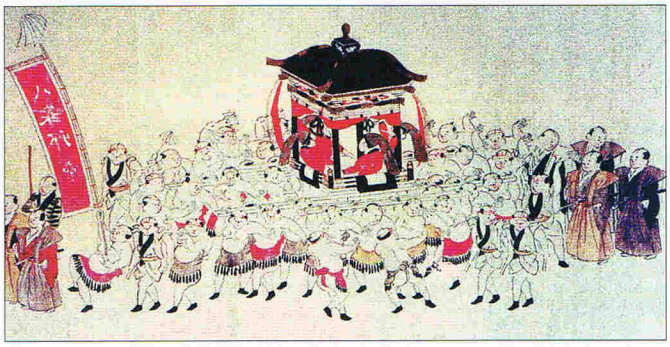
薄く平らで色違いの三畳蒲団を積み、対角線同士を×字に結んでいる。また、今日普段に見られる形状の蒲団〆はない。
舁棒は井桁に組み、舁夫は30人余り。水引幕や高欄掛には牡丹や波、或いは唐草か雨龍らしき文様があるので、この太鼓台には簡単な刺繍も施されていたものと想像する。絵図全体の長さは9mを越すという。（画像提供/姫路市・粕谷宗関氏）

たつの市太子町・阿宗神社奉納絵馬・部分（年表29）…文政年間？（1813-30）



この絵馬の中央と右に五畳蒲団を積んだ平蒲団型の太鼓台、左には神輿屋根型の太鼓台が描かれてる。現在においても平蒲団型の屋台には三畳蒲団のものが多い播州地方にあって、描かれた五畳蒲団は珍しい。
ただ、絵馬の制作年代は文政年間であることに間違いないようなので、当時の大坂辺りの豪華で大きい太鼓台を、他地方に先がけ受入れたものと想像される。

姫路市・松原八幡宮絵巻・部分（年表30）…天保元年頃（1830頃）と推定



現在の神輿屋根型の屋台に比べ、屋根の高さや勾配それに乗子周りの装飾はかなり簡素である。この絵巻については、姫路市の粕谷宗関氏が自著『祭彫刻志・播州屋台学』（2012刊）の中で、作者は地元素封家の三木伊左衛門で、文政11年（1828）に制作・奉納された「松原八幡宮祭礼絵馬」（現在は剥落激しく画像不鮮明）を手本に、後代の天保時代（遅くとも元年頃）に描かれたものと考察された。
（画像提供/姫路市・粕谷宗関氏）